



高等学校

数学

全学年

「分からないところが分からない」を解決して
学習意欲の向上を目指す授業

振り返り活動を軸に構成した授業

1時間の授業の流れ

自分テスト
(自分だけの復習問題)
【復習】



キーワードを
明確にした解説
【本時の問題】



つまずきチェックと共有
【理解の確認】



問題演習
(教え合い・自己説明)
【演習】



振り返りシート
の見直し
【まとめ】



自分テストの作成
【次回に向けて】



生徒が自らの学習
の状況を把握できる
授業デザイン

振り返りシートは授業中いつ書いてもよい

振り返りを
授業全体の
軸として
位置付け、
断続的に
振り返り活動
を行います

※各活動の具体は裏面参照

メタ認知を促すような項目立てた1枚の振り返りシート

生徒は、「日付」「自分テストで思い出したこと」「本時の目標」「今日のポイント」「分かったこと」「分からなかったこと」「難しかったこと、分かったけど忘れてしまいそうなこと」「今までの知識とつながったこと」「4段階の授業の理解度」を記入する。

自分テスト

生徒は、本時に取り組んだ問題から1～3問選び、プリントにメモしておく。授業者は、振り返りシートを参考に、分かった問題、忘れそうな問題を選び、作成するように指示する。次回の冒頭3分間程度で解けるものを選ぶように注意させる。

キーワードを明確にした解説

授業者は、生徒の振り返り活動が円滑に行われるように、学習内容の要点となるキーワードを指定し、黒板・電子黒板に提示しながらキーワードを明確にして例題等を解説する。その際、生徒の活動時間を十分に確保するため、授業者は簡潔に解説するよう心がける。

つまずきチェックと共有

生徒は、「つまずき発見チェックリスト」を確認しながら、「分かったこと、分からなかったこと、大事だと思ったところ」をペアで共有し、その後クラス全体で共有する。また、授業者は、前時までの内容が見直しできるように工夫して提示する。

問題演習(教え合い・自己説明)

生徒は、つまずきチェックを通じて問題が解けそうかを判断する。解けそうであれば問題を解く。解けそうになれば分からないところを明確にした上で、周りの生徒や授業者に聞く。また、共有した「分からなかったこと」を参考に、自分の解き方を自分の言葉で教える立場になったつもりで整理する自己説明を行う。